

高齢者住宅リフォームの取り組み

— 介護保険住宅改修事業とNPO活動 —

特定非営利活動法人
福祉医療建築の連携による住居改善研究会

理事 馬場昌子
(関西大学工学部建築学科専任講師)

NPO法人 福医建研究会

特定非営利活動法人
福祉医療建築の連携による住居改善研究会

福医建研究会とは

組織と役員

研究例会

例会のご案内
(2003.7.26例会案内更新)

快居の会

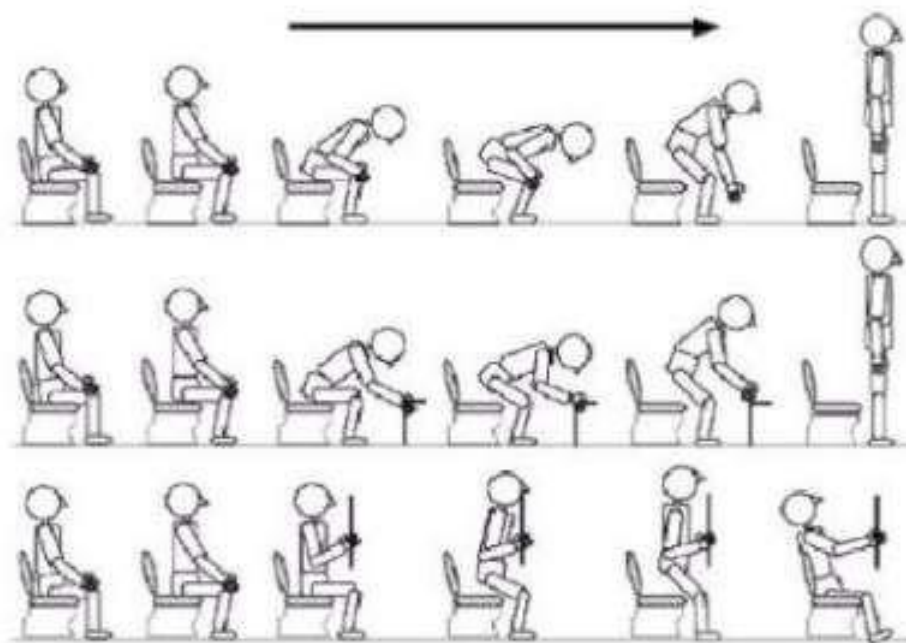
住居改善実践事業部です

プロジェクト

本の紹介をしています

高齢者や障害者が自宅において安全で快適な生活を営むには、福祉、医療、保健、建築など関連する職種、職能の専門家が連携して、住まい方や福祉サービスの利用などのソフトの面および住宅の改造などのハードの面をあわせた住居改善の活動に取り組む事が重要である。

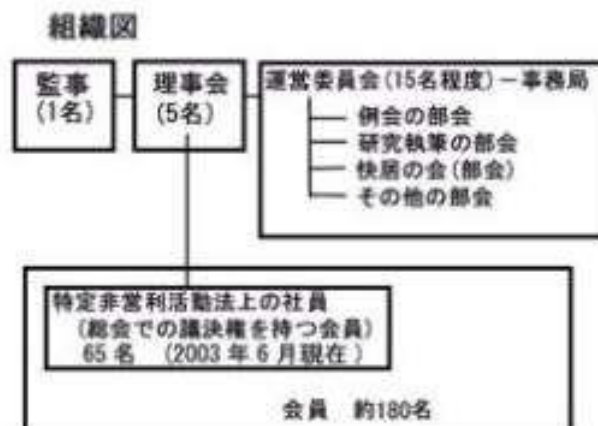
高齢者、障害者が安全で快適な社会生活を送ることが出来るかどうかは、基本的人権に関わる問題ととらえ、各分野の専門家が連携して住居改善についての活動ならびに関連する活動に取り組むことにより、多くの人たちの福祉の増進に寄与することを本会の目的とする。



トイレの立ち上がり動作

活動メンバー・組織の特色

在宅福祉を充実させるために必要な住居改善に関心を持つ有志により1990年頃から活動する研究会が、特定非営利活動法人格を取得したものです。組織図に示すように、本会は法人として必要な社員(総会での議決権を持つ会員)と理事および監事を従前の組織に追加することにより成り立っています。会員は、主として関西における、自治体の保健・福祉部門に所属するもの、住宅介護支援センター職員、福祉機器関連会社、住宅メーカー、建築事務所などの建築技術者、施工業者、大学の建築系・住宅系・保健系・公衆衛生系の研究者などで構成されており、住居改善を推進していく上で連携を取る必要のある分野をほぼ網羅している。最近では、ケアマネジャーの資格を有する者の入会も散見される。



理事の紹介

馬場 昌子……	所属:関西大学 工学部建築学科 専任講師 専門:住宅計画学、建築学、一級建築士 所属学会:日本建築学会、都市住宅学会、他
中田 智子……	所属:大阪府立看護大学 医療技術短期大学部 教授 専門:老年・地域看護 所属学会:全国在宅ケア学会、看護科学学会、日本老年看護学会
柳 尚夫……	所属:大阪府池田保健所 所長 専門:精神科医師(公衆衛生、精神保健、地域リハビリテーション) 所属学会:日本公衆衛生学会、全国リハビリテーション研究会
佐藤 和子……	所属:佐藤建築事務所 専門:一級建築士、大手前女子短期大学非常勤講師
新 雅子……	所属:大阪府藤井寺保健所 企画調整課 主査 専門:臨床心理士(コミュニティ心理学、地域リハビリテーション)、精神保健福祉士 所属学会:日本心理臨床学会、日本コミュニティ心理学会、日本精神障害者リハビリテーション学会

特定非営利活動法人 福祉医療建築の連携による住居改善研究会
2003年度 第2回 例会のお知らせ
シリーズ企画 これてよいのか住宅改修1

事例に基づく介護保険住宅改修・住宅改造助成事業の検証

シリーズ企画の復活です。今までも何度か、単発的に「住宅改修」をテーマに取り上げてきましたが、やはり本格的に取り上げようということになりました。
昨年度、1町の住宅改修・改造事例を調査しました。すべての例が、ケアマネジャーと家族または本人により改修内容が決められていました。工事は1例を除き福祉用具取扱店が請け負ったものでした。研究会でその内容をご報告しますが、残念ながら改修効果が際立つ例はありません。
なぜこのようなことになるのでしょうか。事例のビデオ紹介や解説をしつつ、皆さんと一緒に介護保険住宅改修・住宅改造助成制度について、特に制度そのものの問題、技術的側面、専門家の関わり方などについて真剣に議論したいと思えます。日常業務として住居改善を目指して活動されている方、特にケアマネジャー、施工業者のみなさんに奮ってご参加いただきたいと思えます。
以後のシリーズ企画これてよいのか住宅改修は、「てすり」「段差」「建具」を予定しています。

開催日時: 2003年7月26日(土) 午後2時～5時
開催場所: 大東市立市民会館中会議室
JR宇都宮線住道駅(京橋から5つ目)から徒歩約10分



プログラム
2:00～5:00
スピーカー/馬場昌子、大林琢三(関西大学) 司会/佐藤和子(佐藤建築事務所)
介護保険住宅改修・住宅改造助成事業の1町事例に基づく検証 質問と議論
連絡事項、終了

参加費 会員800円 会員外1500円(会員外の参加を歓迎します)
同合せ (特活)福祉医療建築の連携による住居改善研究会 略称 福医建研究会
541-0046 大阪市中央区平野町1-2-3 TEL/FAX 06-6231-1277

住宅改修前後の動作変化一覧表

0: 全く変化無し 1: 多少の変化あり(気持ち安心程度) 2: 変化あり(介助の必要が無くなった)

行為	動作	事例1	事例2	事例3	事例4	事例5	事例6	事例7
排便	便所までの行き来	0	0	/	0	/	0	/
	便所の出入り	/	0	/	/	/	0	/
	便座に座る、しゃがむ、移乗する	/	0	/	0	1	0	/
	後始末	0	/	/	/	/	/	/
	便座から立ち上がる、移乗する	/	0	/	0	1	0	/
入浴	風呂場までの行き来	/	/	/	/	1	0	/
	洗い場の出入り	/	/	/	/	/	0	/
	浴槽の出入り	/	/	/	/	2	0	/
洗面	洗面所への行き来	/	0	/	0	1	0	/
食事	食卓までの行き来	/	0	/	0	/	0	/
就寝	寝室までの行き来	/	0	/	/	/	0	/
外出	階段の昇り降り	/	/	/	/	/	2	/
	玄関までの行き来	/	0	/	0	/	0	0
	土間に下りる・上がる	/	0	/	0	/	/	0
	玄関から屋外に出る	/	/	/	/	/	/	0
	道路に出る	/	/	/	/	/	/	0
	変化の合計	0	0	0	0	6	2	0

(注)事例3は、骨折時に住宅改修を行い、現在は杖歩行ができる状態に回復しているため住宅改修時の状態の生活状況は未確認で比較は行えないので、斜線としている。

1階間取り

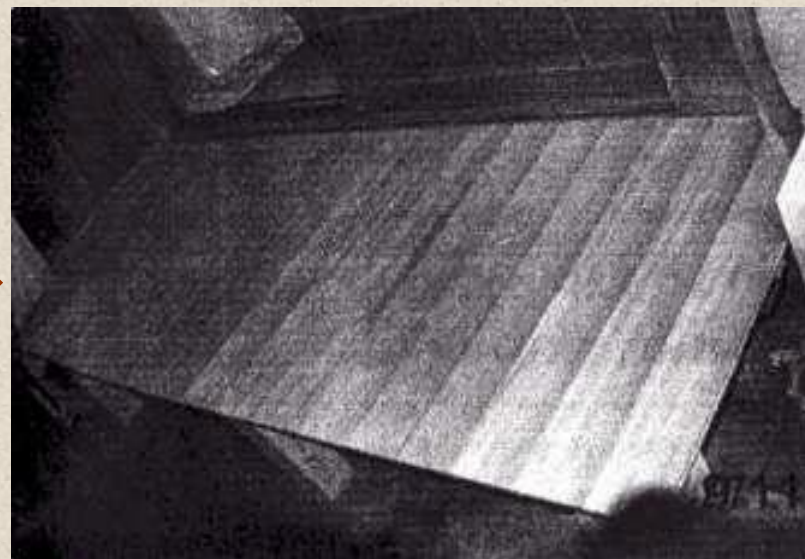
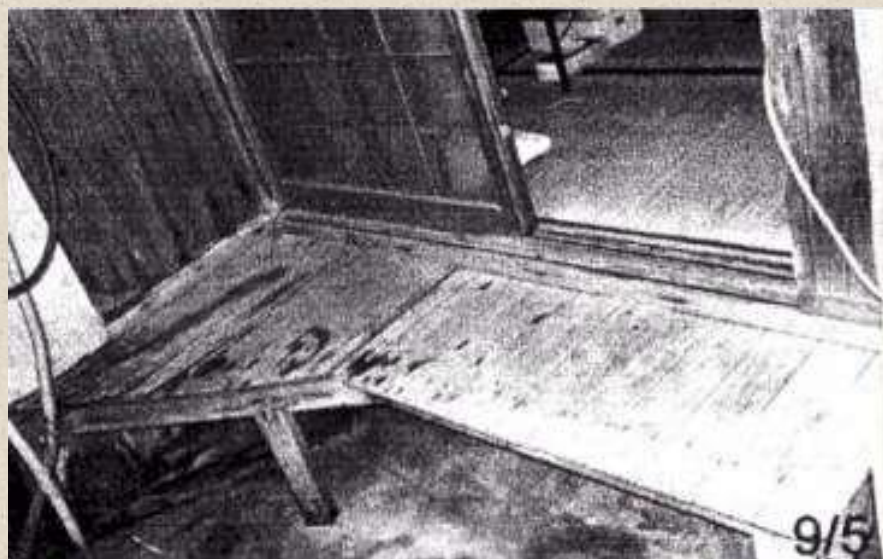


改造箇所

手すり記号

動線

- ① 食事をとる場所
- ② 昼間主にいる場所
- ③ 寝る場所



改修前

改修後(縁側)

関わった業者一覧表

	職種	有資格者
業者A	大工	建築士
業者B	福祉用具取扱店	福祉用具専門相談員 福祉住環境コーディネーター2級 ホームヘルパー2級 2級建築士 2級建築施工管理技師
業者C	福祉用具取扱店	福祉用具専門相談員
業者D	福祉用具取扱店	福祉用具専門相談員 福祉住環境コーディネーター2級 ホームヘルパー2級
業者E	福祉用具取扱店	なし

住宅改修の問題の原因

福祉・医療・建築の専門的な視点の欠如



- ①住宅改修ニーズの掘り出し不足
⇒事例1, 2, 6, 7
- ②住宅改修目的の追求不足⇒事例1, 3, 6, 7
- ③動作シミュレーション不足⇒事例1～7
- ④住宅改修技術不足⇒事例2, 3, 5, 6, 7
- ⑤住宅改修提案の技量不足⇒事例1～7
- ⑥住宅改修箇所の効果の見極め不足⇒事例1～7

快居の会 住宅改造相談活動

無料相談活動

- ①電話受付 06 - 6946 - 6161
- ②メールアドレス fukuiken@eagle.ocn.ne.jp
- ③受託相談活動

Ex1)大阪府住宅センター

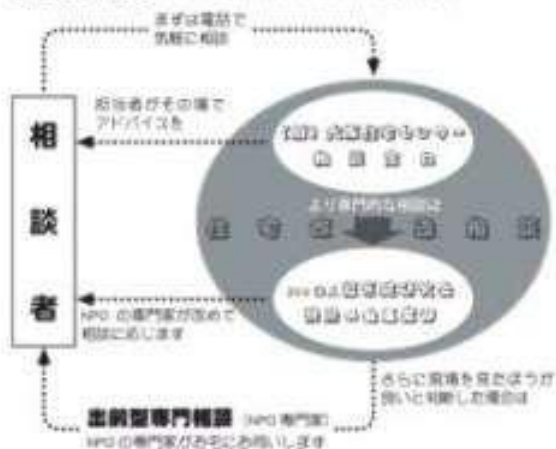
「高齢者障害者のための住宅改造相談」

フリーダイヤル 0120 - 567 - 504

Ex2)某自治体介護保険住宅改修及び
住宅改造の相談

他

相談の流れ (NPO 法人との連携による)



高齢者や障害者の住宅改造では福祉、医療、保健、建築の各分野の専門家が連携し、総合的なアドバイスのもとに計画することが重要です。

大阪住宅センターでは高齢者や障害者の方々が安心して快適に生活できるよう、専門家のNPO法人と連携して住宅改造の相談を行っています。

NPO法人 福医建研究会とは

高齢者や障害者のより良い在宅環境を目指し、福祉・医療・保健・建築の関係者が集う研究会です。その中でも、建築士が集まった「住居の会事務局」では、実際に個々の相談に応じて住居改善を実施しています。

住居の会

TEL FAX 06-6946-6161
http://www7.ocn.ne.jp/~fukuiken/

福祉医療建築の連携による住居改善研究会
〒541-8646 大阪市中央区平野町 1-2-3
TEL/FAX 06-6231-1277



こんなことで 困っていませんか？

- ・道路から玄関までの段差がづらい
- ・浴槽への出入りがたいへん
- ・トイレでの立ちすわりがたいへん
- ・客室からトイレまでが遠い
- ・階段が急で上り下りがこわい
- ・トイレや浴室が使えない
- ・障害のため、今の住まいでは暮らせない

まずは電話で
お気軽にご相談ください
フリーダイヤル0120-567-504



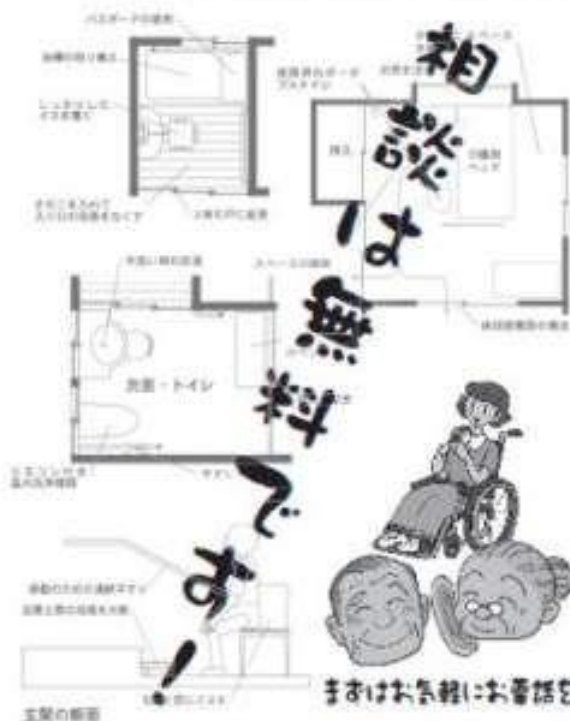
相談日 火曜日～木曜日
午前10～12時 午後1～4時

大阪住宅センターは

「公的な立場から住まいづくりのお手伝い」をモットーに、公共と民間の間にある公益法人の特色を生かして、住まう人・住まいを提供する人・行政とが一体となって、安全で安心して生活できる住まいづくりを促進しています。

事務局：大阪市中央区南船場四丁目4番3号
御堂筋アーバンライフビル4階
電話 06-6253-0071 Fax 06-6253-0145
http://www.osaka-jutaku.or.jp/

高齢者・障害者のための 住宅改造相談



財団法人 大阪住宅センター

フリーダイヤル 0120-567-504

FAX.06-6253-0145

相談日 火曜日～木曜日

午前10～12時 午後1～4時

長い高齢期を快適に暮らすために

自立した生活をおくるために

身体に不自由があっても自立した生活をおくるためには、住環境をその人に合った形に整えるということが何より重要です。住環境の整備は単にハードの提供、という意味だけでなくその人の「生き方」までも捉える大きな力を持っています。

まだまだ多い、高齢者に危ない住宅

- ・家外あるいは室内の小さな段差
- ・居室から遠くて、狭く深いトイレ
- ・深い階梯、狭くて寒い脱衣室や洗面
- ・道路から玄関上がり幅まで何段もある段差と狭い玄関など
- ・家屋内における自然的要因による不慮の事故で亡くなる人は毎年 6600 人以上。高齢者の場合は、なんと交通事故による死亡者数が多い
- ・家屋内の事故を未然に防ぎ快適な暮らしを送るためには、事前に小さな段差をなくしたり、手摺りを設置する等、住環境の整備を行うことが大変重要



財団法人大阪住宅センターでは高齢者に陥らず、皆様が安全で快適に生活できる住まいの改善を図るため、幅広く住宅の改造相談に応じています。

専門家による高齢・障害者の住宅診断を！

高齢者・障害者の住宅改造に経験豊富な専門家が、住居人の条件（身体機能の状態や家族条件など）と住居の条件（建物の構造、敷地や間取りなど）を総合して、住居内での困り事の解決方法をアドバイスします。

改造の事例



浴室の改装例

浴槽のエアフロマットを合わせてベンチを設置。転倒してリフトを使うときも、安心して浴槽に入るのにも便利。スペースがない場合は折り畳み式。



トイレの改装例

高齢や車イスが必要になると、トイレだけでなく洗面も狭くて使えないことがよくある。洗面所が狭い場合は、バスルームで済ませると動きやすくなる。



外出を助けるリフトを設けた例

窓の一部を切り取り、窓枠と窓枠とを補修するように段差昇降リフトを設ける。窓高 1.5m 程度まで対応。玄関を通るより早く簡単に外出が可能。

住みやすくする方法、いろいろ

心構え、生活ルールづくり、使い方の変更

- ・つたづく転倒になる床上のものを整理
- ・家具配置を変え、歩幅で安全な移動動線に
- ・二階階段を一階に移して、危険な階段の上り下りをなくす

ちょっとした物の工夫や機器の購入

- ・玄関に椅子を置く、ベッドからの起き上がりを助ける等）やすい靴の取りつけなど
- ・万能ハンドルなどの便利グッズの利用
- ・杖や車行器などの簡単な福祉機器の利用



住宅の改造

- ・床段差の解消、手摺の設置など
- ・障害に合わせてスペースを拡大して使いやすく
- ・便利な設備機器や福祉機器が利用できるように

福祉サービス機関の活用

- ・入浴サービスの利用
- ・訪問リハビリ、訪問看護の利用
- ・ホームヘルプサービスの利用など